

【主な出来事】

- 議会で多数割れ目前の与党に対し、野党側が内閣不信任案提出をちらつかせて揺さぶりをかけ、内政は再び流動化。
- 新型コロナウイルスの感染に歯止めがかからず、感染者は1万人を越えた。

1. 内政

▼内閣不信任決議案提出を巡る動き

- ・4日、カンドゥ・プロモルドバ・グループ代表は、PAS及びDA関係者と協議を行い、キク政権が辞任した場合の新政府の体制について話し合った旨明らかにしつつ、ナスターセを首相とすることを支持するとした。PAS及びDA側はこの話し合いについて否定した。
- ・5日、ナスターセDA党首は、DAが想定している政府にはショール党及びプロモルドバ・グループは含まれないと述べた。
- ・ドドン大統領は、野党はキク政府を打倒して政権を担い責任を取ることを恐れているとしつつ、社会党はいつでも協議に応じる用意がありPASは社会党との協力の可能性を排除すべきでないと述べた。
- ・カンドゥ・プロモルドバ・グループ代表は、内閣不信任決議案への投票が秘密投票となる場合には60人の議員が不信任決議案に賛成するだろうと述べた。
- ・8日、サンドゥPAS党首は、民主党関係者と協議を行ったことを明らかにしつつ、民主党は社会党との連立を解消する準備ができていないと述べた。また、キク政府が総辞職する場合、PASはショール党の票が鍵を握るような政府には賛成しないと述べた。DAを中心とする内閣についての記者からの質問に対し、サンドゥ党首は具体的な提案を受けておらず答えられないとした。

▼民主党議員の離党

- ・9日、アンゲル・アガケ民主党議員が民主党を離党しプロモルドバ・グループへの参加を表明した。これによって社会党と民主党の連立内閣の議会勢力は51議員となった。フリブ民主党党首は、プロモルドバ・グループとショール党が大金で議員達を買収しているとして非難した。

▼保健相への不信任決議

- ・10日、プロモルドバ・グループは、ドゥンブラベアヌ保健相への不信任決議を提出予定であることを明らかにした。

▼民主党、議員の買収を非難する議会決議提出

- ・11日、民主党は議員の政党間の移動を非難する決議を議会に提出。同決議は全会一致で採択された。

新型コロナウイルスを巡る状況

- ・12日、キシニョフ市は、最新の感染拡大状況を踏まえ、独自の規制措置として、公園などの子供の遊び場、公園内の運動場、マンション敷地内の子供用の遊び場などを

閉鎖すること、また、市内各所の市場の開館時間を短縮することを決めた。

- ・13日、政府は最近の感染者増加に鑑み、混雑している場所に軍隊を再動員し、感染防止のための監視を行わせることを決定した。
- ・15日、国際定期航空便が再開され、また、ホテル・レストランの営業が再開された。
- ・6月15日現在の感染者は11,879名、死者411名、治癒者6,794名。

その他

▼ロシア大使館への爆破予告

- ・1日、ロシア大使館に対し館内に爆発物を仕掛けたとの匿名の電子メールメッセージが送られた。ロシア大使館からの通報を受け、警察は直ちに大使館周辺を封鎖し不審物の捜索を開始した。モルドバ内務省の爆破物対策班による捜索の結果、大使館敷地内に疑わしいバックが見つかったものの検証の結果爆発物は見つからず、警察は通報が虚偽であった旨を発表した。
- ・5日、再び当地ロシア大使館に対する爆破予告事案が発生した。前回同様、大使館敷地内及び周辺から爆発物又は疑わしいものは見つからなかった。

2. 外交

▼欧州議会のラポルトゥール、モルドバ政府の対応に不満を表明

- ・2日、欧州議会のモルドバ・ラポルトゥールを務めるトゥドラケ議員は、ドドン大統領及びキク首相は求められている措置を採ることをせず、一方でロシアとの交渉を続けているとし、EUのマクロ財政支援の次のトランシェを受け取るために必要な条件を満たすことに失敗したとして対応を非難した。また、トゥドラケ議員は、2つの帽子を被るモルドバの外交政策に不満の意を示した。

▼中国、マスクなどを追加供与

- ・4日、中国大使館は、KN95マスク10万セット、医療用マスク10万セット、防護服5000セットを新たにモルドバに供与したと発表した。

▼ツレア外務・欧州統合相、EU・東方パートナーシップ諸国オンライン会合出席

- ・11日、ツレア外務・欧州統合相は、EUと東方パートナーシップ諸国との外相レベル・オンライン会合に参加した。会合では、東方パートナーとの今後の協力の優先事項や新型コロナウイルス対策などについて話し合われ

た。

▼モルドバ軍、露戦勝記念パレード出席

・13日、モスクワで予定される戦勝記念パレードに参加するためモルドバ軍兵士75名がモスクワに向かった。兵士らはロシア軍機でモスクワに移動した。

3. 経済

▼干ばつを巡る状況

・2日、ペルジュ農業・地域開発・環境相は、干ばつの影響で、モルドバ南東部が影響を受けており、今年的小麦収穫量が当初予測の1.1百万トンから50～60万トンに減少する可能性があるが、これは食糧安全保障を脅かすものではないとした。国の消費は35万トンと推定されている。

▼国家歳入の減

・5日、今年5月末までの国家歳入は139.5億レイ(8.11億ドル)で、前年同期比5.6%減と報告された。

▼5月外貨準備高

・5日、国立銀行は、今年5月時点の外貨準備が31.36億ドルとなり、前月比76.6百万ドル増と発表した。

▼5月の年間インフレ率

・10日、国家統計局は、5月時点の年間インフレ率が4.05%になった旨を発表した。内訳として、食品7.79%増、サービス3.41%増、非食品0.56%増。

▼1～4月の貿易統計

・15日、国家統計局は、今年4月の輸出総額は149.8百万ドルで、前月28.7%減と発表した。1～4月の輸出総額は824.8百万ドルで、前年同期比13%減。
・同輸入総額は、285.9百万ドルで、前月比42.9%減。1～4月の輸入総額は、1.65億ドルで、前年同期比12.3%減。

▼運輸統計

・15日、国家統計局は、今年4月に949,700人が輸送

されたと報告した(前年同月比89.3%減)。航空旅客は93.5%減、鉄道72.7%減、陸路は89.7%減。今年1～4月に輸送された乗客の総数は20.8百万人で、前年同期比39.1%減。

▼第1四半期GDP

15日、国家統計局は、第1四半期のGDP(総額)が436.8億レイ(25.39億ドル)である旨を発表した(前年同期比0.9%増)。

経済協力

▼世銀の教育分野支援

・5日、2013～2022年の世界銀行による融資「モルドバの教育改革」プログラム(総額50百万ドル)の一環として、3.5百万ドルが学校向けIT機器の購入に提供されることとなった。

4. トランスニストリア

▼ドドン大統領、クラスノセルスキ「大統領」と電話会談

・3日、ドドン大統領はクラスノセルスキ・トランスニストリア「大統領」と電話会談を行い、新型コロナウイルス渦の下での人の移動の問題について話し合った。両岸にまたがるドゥバサリ地区等の自由な移動について合意した。

5. 各種統計

▼犯罪統計

・2日、警察庁は、2020年1月～5月の犯罪統計を発表し、対前年同期比で犯罪は15.4%減少、交通事故は32%減少したと公表した。

▼2019年の出生率最低水準

・1日、国家統計局は、2019年のモルドバの出生率が国民千人あたり12人で、過去5年間で最低である旨公表した。初産の平均年齢は、都市部では27歳、農村部では24歳。

(了)